

厳選! 日本映画 17 作 日本がわかる今観たい映画



日本らしさが十分に表現され、世界が評価する日本映画を「日本の家族」「日本文化」「時代劇」「アニメーション&技術」「ポップカルチャー」「その他」の6つのテーマに分けてご紹介します。

映画鑑賞規制区分 (レーティングシステム)

オーストラリア政府が設置している等級審査委員会 (Australian Classification Board) により、映画及びコンピュータゲームなどの規制区分が定められています (日本とオーストラリアではレーティングの区分が異なります)。

CTC Check the Classification
未区分。

PG Parental Guidance
親のガイダンスと共に視聴することが望ましい。

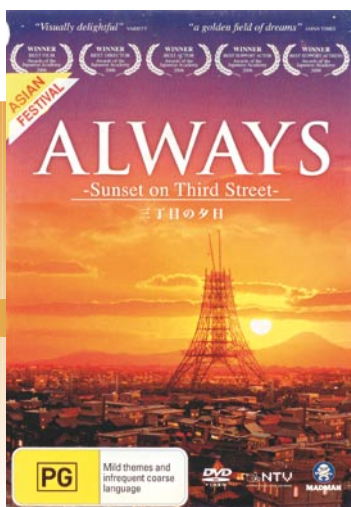
G General
一般向け。

M Mature
15歳以上の視聴が望ましい。

MA 15+ Mature Audiences
15歳未満の視聴禁止。

R 18+ Restricted
成人指定。暴力的な表現が多いため、18歳未満禁止。

X 18+ Pornographic
成人指定。性的な表現が多いため、18歳未満禁止。



日本の家族 ALWAYS 三丁目の夕日 ALWAYS Sunset on Third Street

昭和33年、建設中の東京タワーを望む夕日町三丁目。短気だけれど家族想いの父と、優しい母、そしてやんちゃな小学生が暮らす小さな自動車修理工場に、星野六子が集団就職で上京して来た。一方、駄菓子屋を営む三流小説家の茶川竜之介も、身寄りのない少年の淳之介を預かることに。1,400万の発行部数を誇る、西岸良平の傑作コミックを映画化。2006年の第29回日本アカデミー賞 最優秀作品賞に輝く。その後の物語を描いた続編(2作品)も製作されている。

作品詳細

- 監督：山崎貴
- 主演：吉岡秀隆
- 製作：2005年
- 収録時間：133分
- 豪規制区分：PG

ここに注目

昭和30年代の「東京下町とそこに住む人々」に注目。ここで描かれているのは好景気に沸く東京。家庭にテレビが届いたその瞬間、力道山の試合中継の日、東京タワーが完成したときなど。昭和の東京のエネルギーさと、家族や地域の人々の人情味を共有できる。

日本の家族 東京物語 TOKYO STORY

年老いた両親の一世一代の東京旅行を通じて、家族の絆、夫婦と子ども、老いと死、それらをシビアな視点で描いた小津安二郎監督の作品。尾道に暮らす周吉とその妻のとみが、東京に暮らす子どもたちに会いに出掛けるが、温かく接してもらえない。それでも満足した表情で帰郷した数日後…。イギリス映画協会発表の「世界の映画監督による映画史上最高の作品ベストテン」にて、2012年の投票で第1位を獲得した、後世に語り継ぎたい名作。

ここに注目

「戦後の日本の家族」に注目。決して理想だけでは語れない、高度成長期の家族の現実。今日の核家族化と高齢化社会の問題を匂わすようなシーン。それらを小津安二郎は、説明的要素を限界まで削ぎ落とした台詞で、役者たちにリアルな家族を表現させた。

作品詳細

- 監督：小津安二郎
- 主演：笠智衆
- 製作：1953年
- 収録時間：136分
- 豪規制区分：PG

